株主のみなさまへ

第147期 株主通信

平成24年4月1日～平成25年3月31日

マツダ株式会社

株主のみなさまへ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼を申しあげます。

当社は、第147回定時株主総会および取締役会終了後より、新しい経営体制をスタートいたしました。当社グループの第147期（2012年4月から2013年3月まで）の業績ならびに次期業績見通しについてご報告申しあげるとともに、今後の取り組みについてもご説明いたします。

2013年6月

代表取締役社長兼
CEO（最高経営責任者）
小飼雅道

当期の概況について

SKYACTIV搭載車両の貢献により、全ての利益レベルで黒字達成

経営環境

当期の事業環境は、全体として景気の停滞感が強まりました。海外では、米国の景気は回復基調にあるもののそのテンポは鈍く、欧州の景気低迷は長期化の様相を呈しています。また、新興国では景気拡大のテンポに一部持ち直しの動きが見られたものの、鈍化傾向が続きました。一方、国内でも、円高修正に伴う輸出環境改善への期待感が出てきたものの、海外景気の下振れ懸念などにより先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の中、マツダグループは、「構造改革プラン」で策定した主要施策を着実に実行するとともに、自動車の基本性能であるベース技術を徹底的に向上させた新世代技術「SKYACTIV技術」を搭載した車両を順次主要市場に導入するなど、収益構造の改善に努めてまいりました。

業績

当期は、グローバルで大ヒットしている「マツダ CX-5」に引き続き、SKYACTIV搭載車両の第2弾、新型「マツダ アテンザ（海外名：Mazda6）」を主要国に導入し、期待を上回る受注をいただいています。「CX-5」は「2012–2013 日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞するなど、高い評価を獲得し、当初のグローバル販売見込みを大きく上回る20万台の販売を達成しました。特に、SKYACTIV-D（クリーンディーゼルエンジン）は、高い評価をいただき、日本市場でクリーンディーゼル搭載車が販売台数の約8割を占めるなど、新しいディーゼル市場を創出しました。また、「CX-5」のグローバルでの需要拡大を受け、同車の年間生産能力を24万台へ増強しました。

当期のグローバル販売台数は、前期比1.0％減の123万5千台となりました。売上高は、SKYACTIV搭載車両による出荷台数の増加や車種構成の改善などにより、前期比1,722億円増加の2兆2,053億円（前期比8.5％増）となりました。営業損益は、台数・車種構成の改善やコスト改善などにより、539億円の利益（同927億円増）となりました。また、経常損益は、331億円の利益（同699億円増）、当期純損益は、343億円の利益（同1,420億円増）となりました。SKYACTIV搭載車両の貢献などにより、全ての利益レベルで、黒字化を達成することができました。

配当については、当社は各期の業績ならびに経営環境などを勘案して決定することを方針としています。当期は、繰越利益剰余金の状況に鑑み、誠に遺憾ではありますが、配当を見送らせていただきました。しかしながら、当社は株主還元

連結業績の推移

(3月期)	2012年	**2013年**	増減	2014年見通し	増減
売上高(億円)	20,331	**22,053**	＋1,722	24,800	＋2,747
営業利益(△損失)(億円)	△387	**539**	＋927	1,200	＋661
経常利益(△損失)(億円)	△368	**331**	＋699	970	＋639
当期純利益(△損失)(億円)	△1,077	**343**	＋1,420	700	＋357

を最重要な経営課題と位置付けており、できるだけ早い段階での復配を目指していく所存です。株主の皆様には、何卒、ご理解を賜りますよう、お願い申しあげます。

構造改革プランの進捗

当社は、2012年2月、厳しい外部環境への対応と将来への成長を確実にするために、「中長期施策の枠組み」を強化する「構造改革プラン」を発表しました。発表以来、SKYACTIV技術を梃子とした構造改革を着実に実行してきました。

「構造改革プラン」初年度の当期は、全ての利益レベルで黒字化を達成するなど、大きな成果を得ることができ、中長期見通しの達成に向けて、順調なスタートを切ることができたと評価しています。

今後も、「構造改革プラン」の4つの施策を確実に実行することにより、中長期見通しとして掲げる「営業利益1,500億円」、「売上高営業利益率6%以上」、「グローバル販売台数170万台」の達成を目指します。

▶「構造改革プラン」の進捗については、P.6「特集」もあわせてご参照ください。

次期見通しについて

増収かつ全ての利益レベルで、当期の2倍を超える利益見通し

円高修正などによる企業業績の回復が期待されますが、長期化する欧州の財政危機問題、新興国の景気動向など、先行きに不透明感が残ると予想されます。このような状況ではありますが、引き続き「構造改革プラン」を着実に実行することにより、増収かつ全ての利益レベルで当期の2倍を超える利益を目指してまいります。

グローバル販売台数は、当期比8.1%増の133万5千台となる見通しで、全ての市場で当期を上回り、売上高は2兆4,800億円(当期比12.5%増)、営業利益は1,200億円(同122.5%増)、当期純利益は700億円(同104.1%増)の見通しです。

また、2014年3月期第4四半期の操業開始を予定しているメキシコ新工場など将来に向けての投資も拡大いたします。

今後も厳しい外部環境が続くと予想されますが、これまでのモメンタムを継続し、さらに一つ上のステージに上がれるよう「構造改革プラン」を前進、加速させてまいります。

新しい経営体制について

147期に黒字化を達成し、将来の成長のベースとなる構造改革も着実に前進しつつあることから、経営執行体制の若返りを図ることを決定しました。新体制のもと、さらなる成長を目指す決意です。

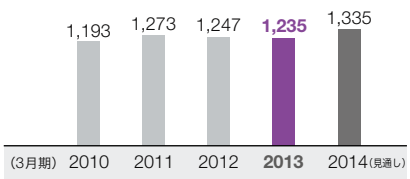
株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申しあげます。

▶ 新任代表取締役・取締役については、P.14をご参照ください。

連結業績ハイライト

* 2014年3月期は見通しです。業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

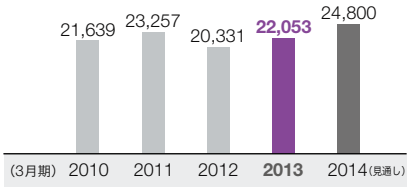
グローバル販売台数
（千台）



ポイント解説

「CX-5」や新型「アテンザ」が販売好調の日本では前期比5.2%増、オーストラリアやASEAN地域などその他市場では同13.5%増となりましたが、欧州や中国で前期比減となり、グローバル販売台数は123万5千台（同1.0%減）となりました。

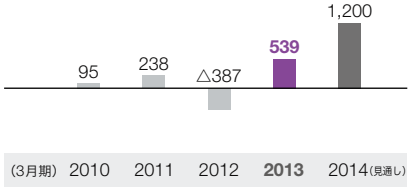
売上高
（億円）



ポイント解説

売上高は前期比1,722億円（8.5%）増の2兆2,053億円となりました。出荷台数の増加や車種構成の改善などが主な要因です。

営業利益（△損失）
（億円）



ポイント解説

営業損益は前期387億円の損失から539億円の利益となりました。「CX-5」や新型「アテンザ」などSKYACTIV搭載車両が牽引役となり、台数・車種構成およびコスト改善が利益増に大きく貢献しました。

連結貸借対照表（要旨）

（単位：億円）

	'13/3末	'12/3末
資産の部		
流動資産	10,275	9,897
固定資産	9,511	9,262
有形固定資産	7,844	7,842
無形固定資産	205	207
投資その他の資産	1,462	1,213
資産合計	19,786	19,159

	'13/3末	'12/3末
負債の部		
流動負債	7,589	6,228
固定負債	7,064	8,187
負債合計	14,653	14,415
純資産の部		
株主資本	4,531	4,107
その他の包括利益累計額	432	582
新株予約権	0	3
少数株主持分	169	53
純資産合計	5,132	4,744
負債純資産合計	19,786	19,159

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

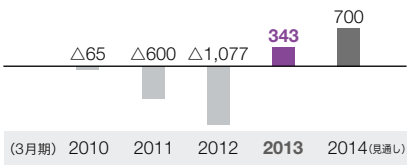
連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

	'12/4 – '13/3	'11/4 – '12/3
売上高	22,053	20,331
売上総利益	4,760	3,705
営業利益（△損失）	539	△387
経常利益（△損失）	331	△368
税金等調整前当期純利益（△損失）	391	△553
当期純利益（△損失）	343	△1,077

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

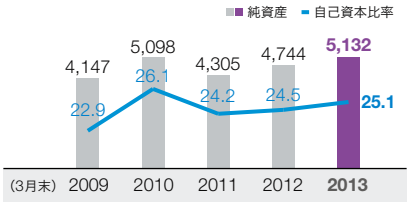
当期純利益（△損失）
（億円）



ポイント解説

当期純損益は前期1,077億円の損失から343億円の利益と黒字化を達成しました。

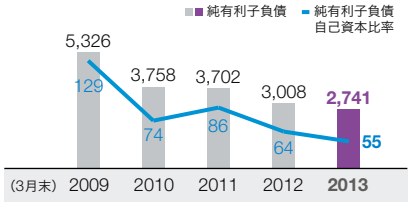
純資産／自己資本比率
（億円／%）



ポイント解説

自己資本比率は前期末から0.6ポイント改善し、25.1%となりました。また、純資産は前期末比388億円増加し5,132億円となりました。

純有利子負債／純有利子負債自己資本比率
（億円／%）



ポイント解説

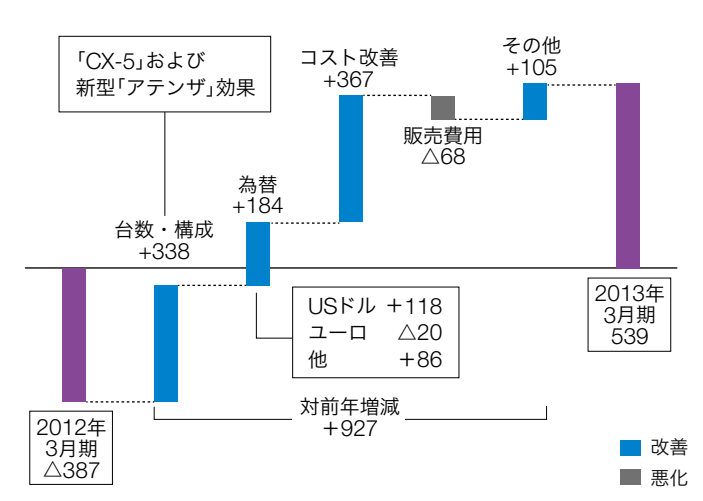
有利子負債から現金及び現金同等物の期末残高を除いた純有利子負債は、2,741億円となりました。純有利子負債自己資本比率は55%と前期末より大きく改善しました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）
（単位：億円）

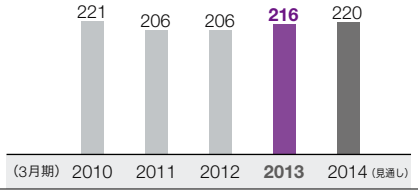
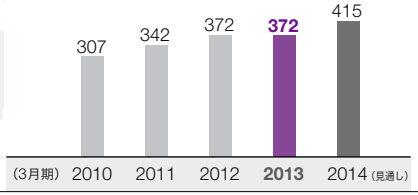
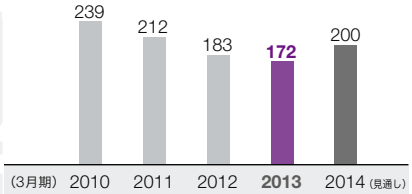
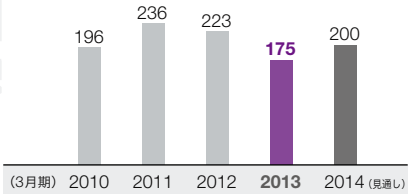
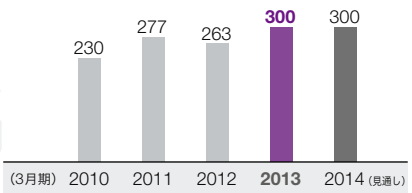
	'12/4 – '13/3	'11/4 – '12/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	490	△91
投資活動によるキャッシュ・フロー	△403	△703
財務活動によるキャッシュ・フロー	△572	2,365
現金及び現金同等物に係る換算差額	150	△26
現金及び現金同等物の増減額（△減少額）	△334	1,545
現金及び現金同等物の期首残高	4,773	3,228
現金及び現金同等物の期末残高	4,449	4,773

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

営業利益変動
（単位：億円）



市場別ハイライト

	販売台数（千台）	概要
日本市場		▶ 当期の販売台数は、「CX-5」および新型「アテンザ」が販売を牽引し、対前年5%増の21万6千台 ▶「CX-5」はSUVセグメントで販売台数1位を獲得。11月に発売した新型「アテンザ」は、当初見通しを大きく上回る販売を達成 ▶「CX-5」に続き新型「アテンザ」も、クリーンディーゼルエンジンSKYACTIV-D搭載車が好調 ▶ 次期の販売台数は、好調な新型「アテンザ」の通年寄与などSKYACTIV搭載車両の貢献により、2%増の22万台の見通し
北米市場		▶ 当期の販売台数は、前年並みの37万2千台 ▶ 米国の販売台数は、「CX-5」および「Mazda3」が販売を伸ばし、対前年2%増の27万3千台。「CX-5」は、2.5Lモデルの導入により好調な販売を継続。新型「Mazda6」は、高い評価を獲得し、好調な滑り出し ▶ インセンティブおよびフリート比率の抑制などブランド価値向上の施策を継続 ▶ 次期の販売台数は、「CX-5」のさらなる台数増と新型「Mazda6」の本格導入などにより11%増の41万5千台の見通し
欧州市場		▶ 当期の販売台数は、需要減により対前年6%減の17万2千台 ▶ 車両の供給が改善した「CX-5」の販売は、第4四半期で大きく増加。新型「Mazda6」はドイツ、英国、ロシア、スイスで高い評価を獲得 ▶ 次期の販売台数は、「CX-5」および新型「Mazda6」の供給改善により、17%増の20万台の見通し
中国市場		▶ 当期の販売台数は、競合激化と厳しい販売環境の中、対前年22%減の17万5千台 ▶ 第4四半期の販売は22%減と、第3四半期の33%減から減少幅は縮小し、着実に改善傾向 ▶ 販売網の拡大は着実に進展。当期末の店舗数は前期末から25店舗増の396店舗 ▶ 次期の販売台数は、新商品の導入により14%増の20万台の見通し。「CX-5」と「CX-7」の現地生産を開始し、新型「Mazda6」は現地生産開始に先立ち輸入車を導入。販売網の強化も継続
その他市場		▶ 当期の販売台数は、ASEANおよびオーストラリアの販売好調により、対前年14%増の30万台 ▶ オーストラリアでは、過去最高の販売台数10万4千台とシェア9.3%を達成し、メーカー別販売台数では2期連続で3位。「Mazda3」は2期連続で全モデル中販売台数1位、「CX-5」はセグメント販売台数1位を獲得 ▶ ASEANでは、対前年54%増の10万1千台。タイでは、過去最高となる7万8千台を達成。インドネシア、マレーシアでも過去最高の販売台数を達成 ▶ 次期の販売台数は、30万台の見通し。オーストラリアを中心に販売モメンタムを継続

特集

構造改革プランの進捗

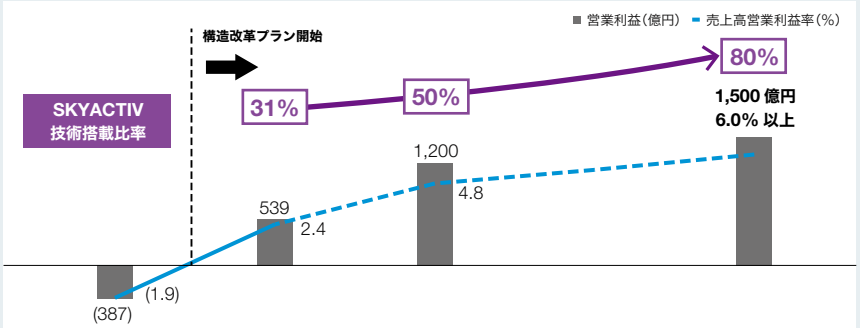
マツダは、厳しい事業環境の変化に積極的に対応し、将来への成長を確実なものとするため、2012年2月に「中長期施策の枠組み」を強化する「構造改革プラン」を策定し、実行してきました。このSKYACTIV技術を梃子とした「構造改革プラン」の施策を着実に実施することにより、当期は全ての利益レベルで黒字を達成しました。今後も、中長期見通し達成に向けて、4つの施策をさらに前進・加速させていきます。今回の特集では、各施策の進捗状況についてご説明します。

構造改革プラン	進捗状況
1. SKYACTIVによるビジネス革新	SKYACTIV搭載車両の好調な販売により台数・構成は大幅に改善し、収益の大幅拡大に貢献
2. モノ造り革新による さらなるコスト改善の加速	モノ造り革新によるコスト改善は着実に進捗
3. 新興国事業強化と グローバル生産体制の再構築	新興国を中心とした生産・販売体制強化は計画通り進捗
4. グローバルアライアンスの推進	商品／技術／地域の補完を目指すアライアンスを推進

中長期見通し（2016年3月期）

営業利益	1,500億円
売上高営業利益率	6%以上
グローバル販売台数	170万台

利益成長イメージ



（3月期）	2012	2013	2014（計画）	2016（計画）
US$/円	79	83	90	77
€/円	109	107	120	100

1. SKYACTIVによるビジネス革新

SKYACTIV搭載車両は販売面および収益拡大に大きく貢献。「構造改革プラン」の進捗を牽引しています。

POINT 1 ブランド価値のさらなる向上

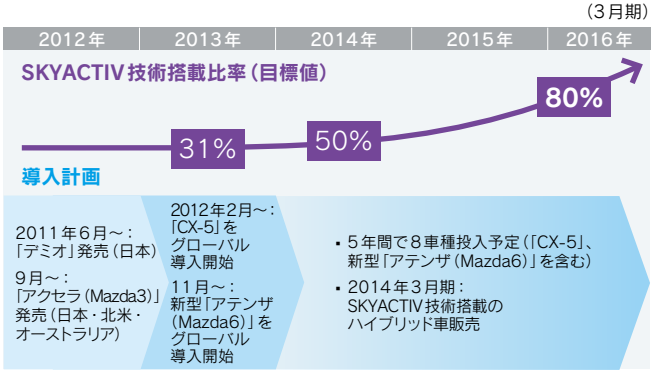
“Zoom-Zoom”な走りと優れた環境性能を高いレベルで両立するSKYACTIV技術は導入直後から高い評価をいただいており、発売以来世界中で80件以上の賞をいただいています。

POINT 2 SKYACTIVによる売り方革新

SKYACTIV搭載車両は、その高い商品力により、インセンティブの抑制および残価改善を実現し、正価販売に貢献しています。

POINT 3 SKYACTIVの販売戦略

「CX-5」および新型「アテンザ」を含むSKYACTIV搭載車両を、2016年3月期までに8車種、グローバルに展開する予定です。2012年に発売した「CX-5」および新型「アテンザ」は共に、グローバルで高い評価をいただいています(▶P.9を参照)。また、2014年3月期にはSKYACTIV技術を搭載したハイブリッド車を導入するなど、SKYACTIV搭載車両の導入は計画通り進捗しています。「構造改革プラン」を牽引するSKYACTIV搭載車両の比率は、全販売台数のうち、当期は31%ですが、2014年3月期にはSKYACTIV搭載車両第3弾の導入により50%に拡大する計画です。さらに、中長期見通しの最終年度にあたる2016年3月期には80%にまで拡大する計画です。



2. モノ造り革新によるさらなるコスト改善の加速

従来より、より効率的に多品種の商品を開発・生産する「モノ造り革新」に取り組んできましたが、「CX-5」からスタートした新世代商品群やSKYACTIV技術では、商品の開発効率化、生産設備投資の効率化、大幅な車両コストの改善を実現しました。このコスト改善は、SKYACTIV搭載車両第2弾の新型「アテンザ」でも期待通りの成果を上げています。

また、グローバル最適調達、外貨建て調達活動の拡大による、為替変動に左右されない車造りも着実に前進しています。

今後もさらに取り組みを加速し、新世代商品群の車両コスト30%改善を目指します。また、生産設備投資の改善目標は、従来の60%から70%に引き上げました。その他の改善目標も計画通り進捗しています。

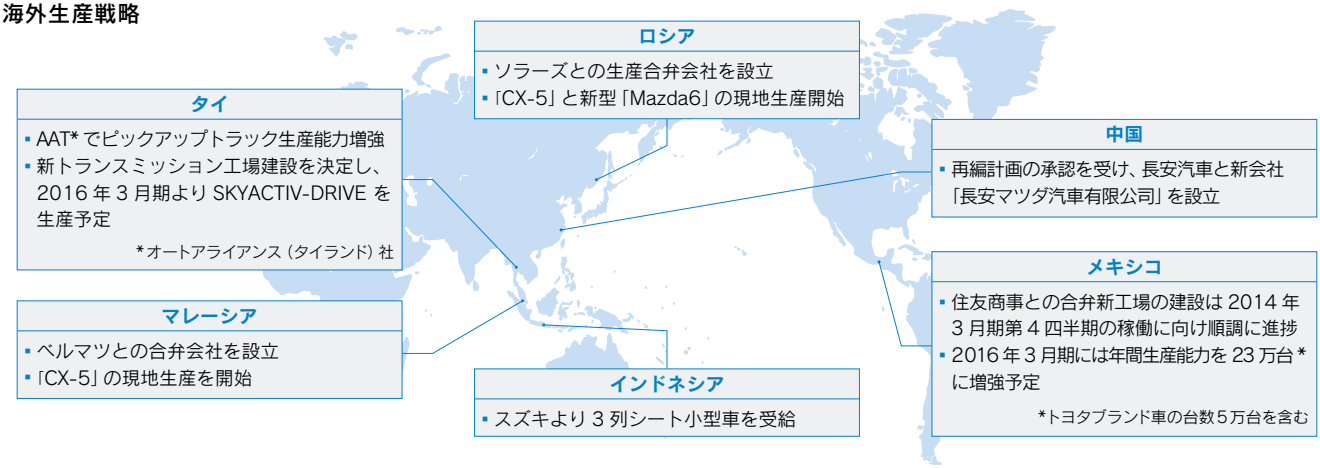
		コスト改善/効率化
開発効率化		30%以上
生産設備投資	SKYACTIV-G/D	60%以上→70%以上
	車両	20%以上
コスト改善	車両(除く、追加装備)	20%以上→30%(目標)
	SKYACTIV-D	現行よりも改善
	SKYACTIV-G	現行直噴よりも改善
	SKYACTIV-DRIVE	現行レベル

3. 新興国事業強化とグローバル生産体制の再構築

国内生産体制を維持しつつ、為替抵抗力の高い生産体制の構築を加速し、2016年3月期には海外生産比率50%を目指します。中国、ASEAN、ロシア、中南米など新興国を中心とした生産・販売体制強化は計画通り進捗しています（▶P.10を参照）。

成長著しいインドネシアでは、スズキより3列シート小型車の受給を2013年5月から開始しました。「構造改革プラン」発表以降、新たに実行または決定した施策は、下図の通りです。

海外生産戦略



4. グローバルアライアンスの推進

従来より、さまざまなアライアンスを推進しています。「構造改革プラン」発表以降、新たに実行または決定した個別事業は、右図の通りです。

今後もマツダブランドをさらに強化するために、商品／技術／地域ごとに最適な補完を行う提携戦略を堅持し、積極的に推進していきます。

トヨタ
- ハイブリッドシステムの技術ライセンスを受給し、2014年3月期に SKYACTIV 搭載の ハイブリッド車を発売
- メキシコでの小型車生産・供給（2015年夏頃生産開始予定）

フィアット
- アルファロメオ向け2シータースポーツカーの生産に向けた事業契約を締結

スズキ
- インドネシアで3列シート小型車を受給開始（車種名：「マツダ VX-1」）

ソラーズ
- ロシアで生産合弁会社を設立
- 「CX-5」と新型「Mazda6」の現地生産を開始

日産
- SKYACTIV 技術搭載車両を供給

SKYACTIV-G

ベルマツ
- マレーシアで合弁会社を設立
- 「CX-5」の現地生産を開始

FOCUS 1

SKYACTIV技術を搭載した「CX-5」がグローバルで大ヒット 新型「アテンザ（海外名：Mazda6）」も出足好調

■「CX-5」、新型「アテンザ」の販売好調。日本では、新しいディーゼル市場を創出

SKYACTIV技術と新デザインテーマ「魂動（こどう）」を初めて全面的に搭載し、2012年2月より販売を開始した「CX-5」は、2013年3月期には当初の目標16万台を大きく上回る20万台を販売し、SUV国内販売台数第1位を獲得しました。また、2012年11月に「日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞するなど国内外で高い評価をいただいています。

2012年11月にはSKYACTIV搭載車両第2弾となる新型「アテンザ」を国内で発売し、欧州や北米などグローバル市場にも導入を進めています。新型「アテンザ」も出足は非常に好調で、計画を上回る受注をいただいています。国内では導入後5カ月で目標の2倍の1万台を販売しました。新型「アテンザ」には減速エネルギー回生システム「i-ELOOP（アイ・イーループ）」を搭載し、燃費性能の大幅な向上を実現しました。また、ドライバーの認知支援および衝突回避や被害軽減を図る先進安全技術「i-ACTIVSENSE（アイ・アクティブセンス）」も採用しています。新型「アテンザ」は、マツダの新デザインテーマ「魂動」が高く評価され、「2013ワールドカーデザインオブザイヤー」のベスト3に選出されました。

両モデルに搭載しているSKYACTIV-D（クリーンディーゼルエンジン）が高い評価をいただいています。国内でのディーゼル搭載車の販売比率は、「CX-5」で約80%*、新型「アテンザ」で約70%*と当初計画を大幅に上回り、新しいディーゼル市場を創出しました。

* 2013年4月時点

「CX-5」

新型「アテンザ」ワゴン

■ SKYACTIV技術は世界中で80件以上の賞を獲得。安全面やデザインでも高い評価

主な受賞実績

2012–2013 日本カー・オブ・ザ・イヤー	(CX-5)
2012–2013 日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー	(CX-5)
スイス カー・オブ・ザ・イヤー 2013	(新型Mazda6)

安全面

北米　IIHS Top Safety Pick	(CX-5)（新型Mazda6）
欧州　EURO NCAP安全性能総合評価（5つ星）	(CX-5)

デザイン

2013ワールドカーデザインオブザイヤー　ベスト3	(新型Mazda6)

FOCUS 2

新興国で生産能力を増強

マツダは為替抵抗力の高い生産体制を目指し、グローバル生産体制の再構築を加速しています。

■ メキシコの新工場でトヨタブランド車の生産合意、年間生産能力を増強

マツダとトヨタは2012年11月、メキシコのマツダ／住友商事の合弁新工場でトヨタの北米向け小型車を生産することで合意しました。2014年3月期第4四半期に稼働予定の新工場で、2015年夏頃からトヨタブランドの車を年間5万台程度生産します。

また、海外生産能力強化の一環として、トヨタブランド車の生産に加え、グローバルで好調なSKYACTIV搭載車両の販売増に対応するために、新工場の年間生産能力を、稼働当初の14万台から23万台*まで増強することを決定しました。新工場では「Mazda2」と「Mazda3」を生産します。

* トヨタブランド車の台数5万台を含む

メキシコ新工場　完成予想図

■ 中国では再編計画の承認を取得し新会社を設立、南京工場で「CX-5」を生産

2012年11月、中国では、「長安フォードマツダ汽車有限公司（以下、CFMA）」の存続分立の再編計画が承認されました。この再編計画承認を受け、長安汽車とマツダが50：50で出資し、設立した新会社「長安マツダ汽車有限公司」は、南京を拠点に、マツダブランドの開発、生産、販売およびサービスを含むCFMAの全てのマツダ関連業務を担います。また2013年夏から、「CX-5」を南京工場で生産します。

■ タイではピックアップトラックの能力増強を実施、新トランスミッション工場設立を決定

タイにおけるマツダの合弁生産拠点オートアライアンス（タイランド）社（以下、AAT）では、新型ピックアップトラックのグローバルの需要増に迅速に対応するため、2012年5月に、ピックアップトラックの年間生産能力を12万台から14万台に2万台増強しました。

さらに、2013年1月には、SKYACTIV搭載車両の需要増に対応し、同時にグローバル生産体制をより強固なものにするために、年間生産能力40万基規模のトランスミッション工場をタイに建設し、2016年3月期上半期より生産することを決定しました。

新トランスミッション工場は、AATをはじめ、マツダ車のグローバルな生産拠点に向けたSKYACTIV搭載車両用のオートマチックトランスミッション「SKYACTIV-DRIVE」を生産する計画です。

マツダにおける2つ目のトランスミッション工場をタイに設立することによって、需要が急速に拡大しているSKYACTIV搭載車両の生産に対応し、世界各地のお客様のご要望にフレキシブルかつタイムリーに対応できる体制を構築していきます。

SKYACTIV-DRIVE

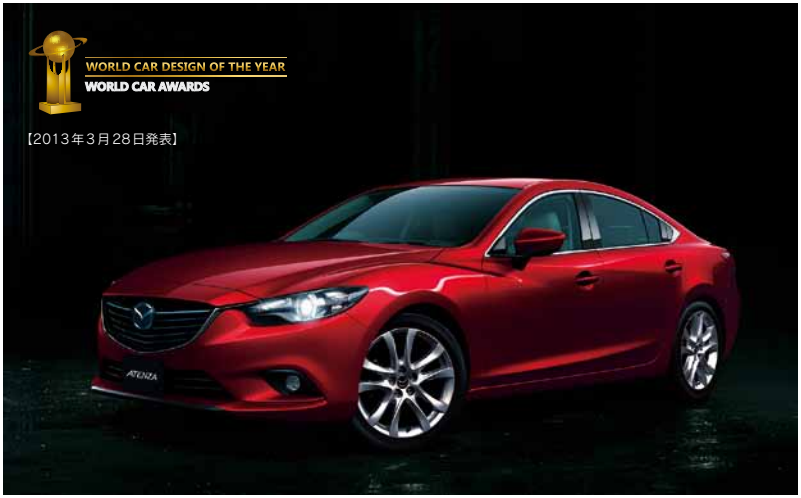
マツダのブランドメッセージ“Zoom-Zoom”を体現したマツダの主要商品ラインアップを紹介します。

Mazda アテンザ

世界的な権威を持つ、
2013ワールドカーデザインオブザイヤーにおいて、日本車で唯一、
マツダ アテンザがベスト3に選出されました。

エコカー減税 *1　クリーンディーゼル補助金 *1　世界基準の走りとエコを SKYACTIV TECHNOLOGY

スタイル	4ドアセダン/ステーションワゴン
排気量	ガソリン：2.0L / 2.5L ディーゼル：2.2L
燃費*2 (JC08モード)	ガソリン：15.6～17.4 (km/L) ディーゼル：20.0～22.4 (km/L)
価格帯*3	250 ～ 340 (万円)



海外市場での車種名：Mazda6

Mazda CX-5

クロスオーバー SUV「マツダ CX-5」が、
「2012-2013日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。

エコカー減税 *1　クリーンディーゼル補助金 *1　世界基準の走りとエコを SKYACTIV TECHNOLOGY

スタイル	SUV
排気量	ガソリン：2.0L ディーゼル：2.2L
燃費*2 (JC08モード)	ガソリン：16.0～16.4 (km/L) ディーゼル：18.0～18.6 (km/L)
価格帯*3	205 ～ 319 (万円)

*1. 減税額および対象グレードについては販売店にお問い合わせください。
*2. 燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用時等）に応じて燃料消費率は異なります。
*3. 記載の価格はメーカー希望小売価格（消費税込。1万円未満は切り捨て）です。別途リサイクル料金が必要となります。

Mazda デミオ SKYACTIV TECHNOLOGY

海外市場での車種名：Mazda2

コンパクト	16.6～25.0 (km/L)
1.3L/1.5L	114～162 (万円)

Mazda ベリーサ

コンパクト	15.2～16.4 (km/L)
1.5L	155～186 (万円)

Mazda アクセラ SKYACTIV TECHNOLOGY

海外市場での車種名：Mazda3

5ドアスポーツ 4ドアセダン	10.0～17.8 (km/L)
1.5L/2.0L/2.3L	166～270 (万円)

Mazda プレマシー SKYACTIV TECHNOLOGY

海外市場での車種名：Mazda5

ミニバン	10.6～16.2 (km/L)
2.0L	179～235 (万円)

Mazda ビアンテ SKYACTIV TECHNOLOGY

海外市場での車種名：Mazda Biante

ミニバン	9.4～14.8 (km/L)
2.0L	227～282 (万円)

Mazda MPV

海外市場での車種名：Mazda8

ミニバン	10.0～11.0 (km/L)
2.3L	270～336 (万円)

Mazda ロードスター

海外市場での車種名：Mazda MX-5

スポーツ	11.2～12.6 (km/L)
2.0L	233～292 (万円)

Mazda フレア

軽自動車	24.0～28.8 (km/L)
0.66L	114～163 (万円)

Mazda フレアワゴン

軽自動車	26.8～29.0 (km/L)
0.66L	126～145 (万円)

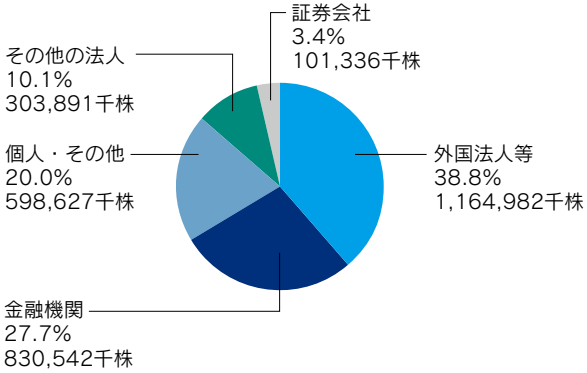
適合グレードは車種により異なります。
詳しくは、販売店にお問い合わせください。

スタイル	燃費*2 (JC08モード)
排気量	価格帯*3

株式の状況（平成25年3月31日現在）

発行可能株式総数	6,000,000,000株
発行済株式総数	2,999,377,399株
株主数	125,596名 （前期末比9,121名増加）

所有者別状況

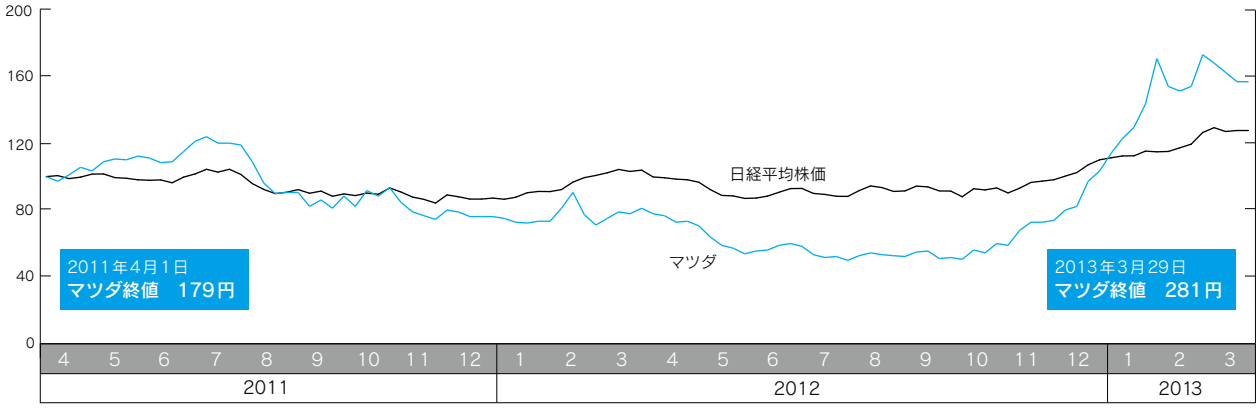


大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	139,844	4.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	134,436	4.5
株式会社三井住友銀行	64,287	2.2
FORD MOTOR COMPANY ACCOUNT FOR MAZDA SECURITIES	62,313	2.1
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	55,952	1.9
伊藤忠商事株式会社	53,411	1.8
住友商事株式会社	53,409	1.8
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	48,488	1.6
MORGAN STANLEY & CO. LLC	40,998	1.4
三井住友海上火災保険株式会社	40,683	1.4

（注）持株比率は、自己株式10,178,030株を控除して計算しています。

株価の推移（東京証券取引所）（2011年4月1日を100として指数化）



会社概要（平成25年3月31日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	258,957,096,762円
従業員数	20,566名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082) 282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番7号 電話(03) 3508-5031
ホームページURL	http://www.mazda.co.jp/

取締役および監査役（平成25年6月25日現在）

代表取締役会長	山内　孝
代表取締役	金井　誠太
代表取締役	小飼　雅道
代表取締役	丸本　明
取締役	原田　裕司
取締役	中峯　勇二
取締役	稲本　信秀（新任）
取締役	黒沢　幸治（新任）
取締役	坂井　一郎
取締役	牟田　泰三
監査役（常勤）	見立　和幸
監査役（常勤）	栃尾　信義（新任）
監査役	赤岡　功
監査役	平澤　正英
監査役	堀田　隆夫

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
公告方法	電子公告 http://www.mazda.co.jp/
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
・郵便物送付先*	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
・電話お問合せ先*	0120-782-031

* 平成25年1月より郵便物送付先・電話お問合せ先が上記のとおり変更となっております。

・ホームページURL	http://www.smtb.jp/ personal/agency/index.html
単元株式数	1,000株
証券コード	7261

IRサイト「株主・投資家情報」をご活用ください。

社長メッセージや決算情報、プレゼンテーション資料など、さまざまな情報を掲載しています。

http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/

Mazda Motor Corporation

zoom-zoom

本誌は植物油インキを使用しています。

表紙掲載車種 新型「Mazda6（日本名：マツダ アテンザ）」ワゴン（欧州仕様車）